

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	法人としての理念はあるが、事業所としての理念はない。		理念ではないが、事業所独自の目標を立て取り組んでいる。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念ではないが、目標を立て職員全員に運営方針・事業内容等を説明し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	重要事項説明書に記載、玄関ロビー内に掲示し、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		今後運営推進会議を通して理念、目標を伝えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の方とのあいさつを含め、気軽に声を掛け合ったりしている。近所の商店などに買い物に行き、日常的なつきあいができるよう取り組んでいる。		近所の方が気軽に立ち寄って頂ける環境を作りたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の祭りの際、町内会の子供みこしが立ち寄り休憩し、入居者様が子供達にお菓子を渡す等、子供との交流を取っている。		これからは地域活動にもっと参加し、地域の方との交流を深めたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議にて町内会の方々に呼びかけ、地域に貢献できないか常に話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	去年の自己評価、外部評価を玄関先に置き、いつでも閲覧できるようになっている。改善計画表を使用し、取り組み方などを話し合い、取り組んでいる。		
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にて出た意見や要望について積極的に取り組み活かしている。会議では今の地域の状況、情報が得られ、年間行事開催にあたっての内容検討の際に役立っている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	業務上の相談など密に連絡を取っている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している方がおり、安心して生活していただけるよう配慮している。また制度について職員間で情報共有をしている。		勉強会を開き、さらに制度についての知識を深めたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	事業所独自のみつめなおそうシートを使用し、自己覚知に励み、虐待のないよう努めている。		今後もみつめなおそうシートを使用し、取り組んでいきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	現在契約を解約する方はいないが、家族から不安や疑問点を尋ねられた時、納得できるよう話し合いをしている。		家族からの不安や疑問点は丁寧に答え、理解納得を図っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情・相談の担当窓口(管理者)や外部窓口を掲示し、意見箱を設置している。その都度意見など話し易いよう考慮している		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	「みのり通信」を毎月家族に向けて発行している。また、状況にあわせて連絡を取っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情・相談の担当窓口(管理者)や外部窓口を掲示し、意見箱を設置している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の各事業所代表者会議、月1回の事業所内の全体会議を開催している。その他フロアミーティングを開き意見や、提案を聞く機会を設けている。		全体会議は月1回開催しており、フロアミーティングは週1回行っている
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者や家族の状況の変化など、フロアミーティング、全体会議で話し合い、その都度こまめに対応できるようにしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は家族、入居者に説明している。なるべく影響が少ないよう考慮している。		職員の異動がなるべく少ないように配慮したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員が外部研修に参加し、全ての職員に周知している。また、法人において教育委員会を設置。内部研修を実施し、職員が参加している。		教育委員会の内部研修が減ってきているので今後増やしていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡協議会に参加し、総会や研修会に参加している。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員との相談は管理者やリーダーが行い、介護部長と連携を取っている。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。			
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談の時点より相談記録などを使い、個人の要望など情報を聞いている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談の時点より相談記録などを使い、個人の要望など情報を聞いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	経営母体の医療機関を始め、通所介護事業所など他部署との連携も視野に入れて		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居後は、常に職員が寄り添い、他の入居者や雰囲気に馴染めるようにアセスメントしている。		入居後いち早く馴染みの暮らしができるよう取組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	縫い物や調理方法など家事を教えていただいたり、唄や踊りなど得意な分野を活かせる場を設定している。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が事業所に泊まったり喜怒哀楽を共に過ごしている。行事にも参加して下さっている。		外泊や外出を増やし喜怒哀楽ができる機会を増やしていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	来訪時には必ず声掛けを行い本人の現在の体調、状況を説明している。また、家族の心配事などには管理者、計画作成担当者、フロアリーダーが窓口になって対応している。		家族が職員に声を掛けやすい状況を作り、良い関係を築いていきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	広報の送付や行事への招待など、関係が途切れないように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ホールや廊下にソファを設置し、談笑できる場所を提供している。また、レクリエーションなどで交流する機会を持っている。		それぞれの入居者の趣向にあったレクができるよう取り組みたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	経営母体の医療機関で、気軽に相談できる仕組みがある。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の関わりの中で聞かれる本人や家族の希望などは、記録し申し送りを行っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴については、相談段階又は入居時に本人又は家族からいねいに聞き取り、それを反映しケアプランや基本情報を作っている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	いつもと違う表現などがある場合には、個人記録に記入し、申し送りをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	週1回のフロアミーティングにて、必要に応じて話し合い、意見交換している。		利用者不在にならないよう、注意している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	アセスメントを行い、職員と状態変化に応じた見直しをし、現状に即した計画を作成している。		現在、センター方式を使用している。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日個別に介護記録を記入し、特に必要な情報はフロアミーティング、申し送りノートを活用し実践している。		情報の共有を怠らないようにしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	経営母体の医療機関や併設の通所介護事業所など、他部署と連携し支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	入居にあたり民生委員を活用してもらうなど、必要に応じて協力している。ボランティアにも行事の際などに参加してもらっている。		ボランティア担当係を作り、訪問してもらう機会を増やしたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域でのケアマネ研修に出席し他事業所のケアマネと交流し、今後のケアプランで参考になるような事を、情報交換し情報を提供仕合うようにしている。		他グループホームのケアプランを見せて頂き、参考にしたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと連携していけるよう取り組んでいきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>主治医が週1回、その他整形外科や歯科の医師など往診に来ていただき対応している。希望にそって他受診も支援している。</p>		<p>医療との連携が適正になるよう取り組んでいる。</p>
<p>44</p> <p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>主治医より認知症の診断をもらい、適切な対応をしていただいている。</p>		<p>認知症の専門医の検査を年に1回でも受けていくようにしていきたい。</p>
<p>45</p> <p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>経営母体の医療機関に病棟があり、24時間看護師が常駐しており、健康状態や医療のアドバイスをもらっている。</p>		<p>看護師が週1回体調確認に訪問、バイタルチェックを行っている。</p>
<p>46</p> <p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>グループホームで急変した場合、経営母体の医療機関の病棟へ搬送され早期対応している。スタッフが状態確認に毎日病棟へ行っている。</p>		
<p>47</p> <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>本人や家族等、かかりつけ医と連携を取りターミナルケアを行っている。</p>		<p>御家族に終末期のあり方の希望などを伺っている。</p>
<p>48</p> <p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>できることできないことについてはセンター方式を使用し、見極めを行い、終末期に向けたチームでのケアを行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	ホーム内、フロア間での転居の例があり、その際は事前にご本人や家族と良く話し合い、末永く生活して頂けるように支援している。またその際に職員間での基本情報等を活用し、情報共有に努めている。		住みやすい環境作りを心掛けていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者一人ひとりの意思を尊重し、プライバシーを配慮し、個人情報の保護については使用済みの薬情や記録紙等、ただちにシュレッターにかけ処分している。		個人情報は必ずシュレッターをかけ処分している。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	生活の中でご本人が納得され、気持ちよく過ごしていただけるように支援している。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に入居者一人ひとりのペースを保ちながら関わり、希望にそったケアをしている。		本人の希望にそって外出等ができるように取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	おしゃれに対して助言している。また、近隣の理美容院の出張や、行きつけの美容院への外出を支援している。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員と一緒に食事し、肉が嫌いな人には魚を提供する等、個人に合わせた工夫を行っている。また、調理や片付けも一緒に行っている。		入居者と一緒に食事以外におかし作りを一緒に行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙ルームがあり入居者や家族がいつでも煙草を吸えるようになっている。お酒を提供する場もあり、個人の嗜好に合わせた日常生活を送れるよう支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	1日の排泄を記録し、排泄パターンを把握している。出来る限りトイレでの排泄を支援している。		夜間パット交換を嫌がる入居者に対しては毎日シーツ交換をしている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴曜日は決まっているが、状況にあわせて入浴してもらっている。経営母体の医療機関の機械浴を使用されている方もいる。		入浴剤を使用し入浴を楽しめるよう取り組みたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間入眠されない方もいるので、個人に合わせた就寝時間を心がけている。また、日中の活発な活動により夜間良眠につながるよう支援している。		夜間入眠されない方が気持ちよく休息できるよう、昼寝を声掛けている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者個人にあった娯楽や役割を職員が把握し、支援している。		入居者それぞれに合わせた楽しみ事を提供している。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理が困難な入居者に関しては、事業所にて管理。必要に応じて使用していただいている。		一方的に管理しすぎないように、気を付けたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	入居者の希望により、外出ができるよう勤務表を調節して実行している。		入居者の要望を日頃から聞いて外出している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	頻繁ではないが、普段行けない所に外出している。また家族とも外出できる機会を作っている。		頻繁ではないので外出する回数を増やしたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者が家族等に手紙や電話をやりとりできるよう支援している。		いつでも手紙を出したり、電話をかけたりできるよう取り組んでいる。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や馴染みの人達が頻回に訪問したり、宿泊もされ居心地良く過ごされるよう取り組んでいる。		訪問回数が増えるよう話しやすい雰囲気作りを取り組んでいきたい。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを実践し、研修でも学びそれをスタッフに統一するよう取り組んでいる。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間帯職員が一人になる為、対応できない場合に施錠することがある。		夜間でもできる限り施錠しないケアに取り組んでいきたい。
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中ホールで過ごさない方は定期的に様子を見に行くようにし、夜間は3時間置きの巡回をして様子を確認し安全な生活ができるよう配慮している。		睡眠を妨げないように注意している。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤など注意の必要な物品はそれぞれの現状に応じて対処するようにし、一律でなく個々に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>事故防止、防災のマニュアルを設置している。</p>		<p>起きてしまった場合はフロアミーティングを開き、防止策を練っている。</p>
<p>70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>緊急時対応マニュアルを設置し、内部研修を行っている。</p>		<p>内部研修を最近行っていないので近々行えるようにしたい。</p>
<p>71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>消防署の指示を得て、年2回の防災訓練を予定している。</p>		
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。</p>	<p>管理者やフロアリーダーが担当し、家族や関係機関と十分に話し合い、対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックを行い特別な変化や異変がある時には職員間で情報を共有し、看護師や主治医にも報告し対応している。		転倒や特別な変化があった場合にはすぐ主治医に連絡をしている。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方された服薬内容は職員皆が理解した上で服薬の支援や症状の変化を確認し、服薬の説明書を個人ファイルに保管し、医師の指示通りに服薬できるよう支援している。症状の変化はすぐに医師に確認している。		副作用については勉強不足な部分もあるので今後勉強していきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	職員は便秘に対しての理解及び、排便状況を理解して飲食や運動に考慮するよう支援している。		便秘が続く場合は主治医に相談し、適切な薬を処方してもらっている
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアを入居者一人ひとりに応じて実行するよう支援している。週2回の義歯の消毒を行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者の身体に応じた一日の水分量、食事量を理解してそれぞれの状態、力、習慣にそって摂取していただけるよう支援している。		食事量、水分摂取量を記録している。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルがある。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所関係の衛生管理に努め、食材の使用、管理に努めている。管理マニュアルを設置し、清掃、消毒などチェック表に記入している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに草花を植えている。建物外観は3階に高齢者用賃貸住宅がありマンションのような雰囲気、家族や近隣住民も訪ねやすい。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	光の強さに対してはこまめにブラインドで調整し、テレビ、職員の会話のトーンが大きくなるよう配慮している。		あくまで入居者にとって、生活の場だということを忘れないよう心掛ける
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールや廊下にソファ・ベンチを設置し、談笑できる場所を提供している。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室にはそれぞれたんすや椅子などが持ち込まれている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	全居室に換気扇・温度計・湿度計を設置し、状況に応じた換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共有空間には手すりを設置している。トイレにも手すりが設置されている。浴室・浴槽にはすべり止めを設置している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレの戸に分かりやすく、大きな文字で目印をつけるなどの工夫をしている。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関前にベンチを置いたり、裏の敷地に花壇や畑を作ったりして、入居者と共に活用している。</p>		

サービスの実績に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 <自分を見つめなおそうシート>を作り、毎月記入することで、自己覚知に努めている。